

都道府県・ 指定都市番号	59	都道府県・ 指定都市名	京都市	研究課題番号・校種名	2 (5) 小学校・中学校
				領域名	校種間連携
研究課題	<b>学校全体で取り組む研究課題</b> (5) 校種間の連携による教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名  (園児・児童・ 生徒数)	きょうとしりつふしみちゅうがっこう 京都市立伏見中学校 (626名)  きょうとしりつふしみすみよししょうがっこう 京都市立伏見住吉小学校 (426名)  きょうとしりつふしみいたはししょうがっこう 京都市立伏見板橋小学校 (574名)  きょうとしりつしもとぼしょうがっこう 京都市立下鳥羽小学校 (376名)			学校・地域の特色及び実態等 ・小中一貫構想図や軸となる取組を見直し，その中で「学習意欲の向上の工夫」という目標を掲げているが，その具現化に向けた取組を進めていく必要がある。	
所在地 (電話番号)	京都市立伏見中学校 〒612-8065 京都市伏見区御駕籠町97 (075-611-5161)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=206501">http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=206501</a>				
研究のキーワード	学校図書館を活用した授業・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善・学びの連続性				
研究結果のポイント	○合同授業研究会などの機会を通して，互いに指導方法を交流し，各校で学校図書館を活用した授業に取り組んだ。 ○主体的・対話的で深い学びの視点から作成した共通の学習指導案による授業を，3小学校で展開することができ，小中の連続性のある授業の実践のスタートを切ることができた。 ○各校の学校図書館を活用した授業の実績表を作成し，それを基に交流することができた。 ○研究だよりを発行し，校種間連携を意識した情報の共有化が図れた。				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

小中9年間を通して，学校図書館を活用した質の高い言語活動を展開することで，主体的・対話的で深い学びの実現を目指した指導法の開発・研究

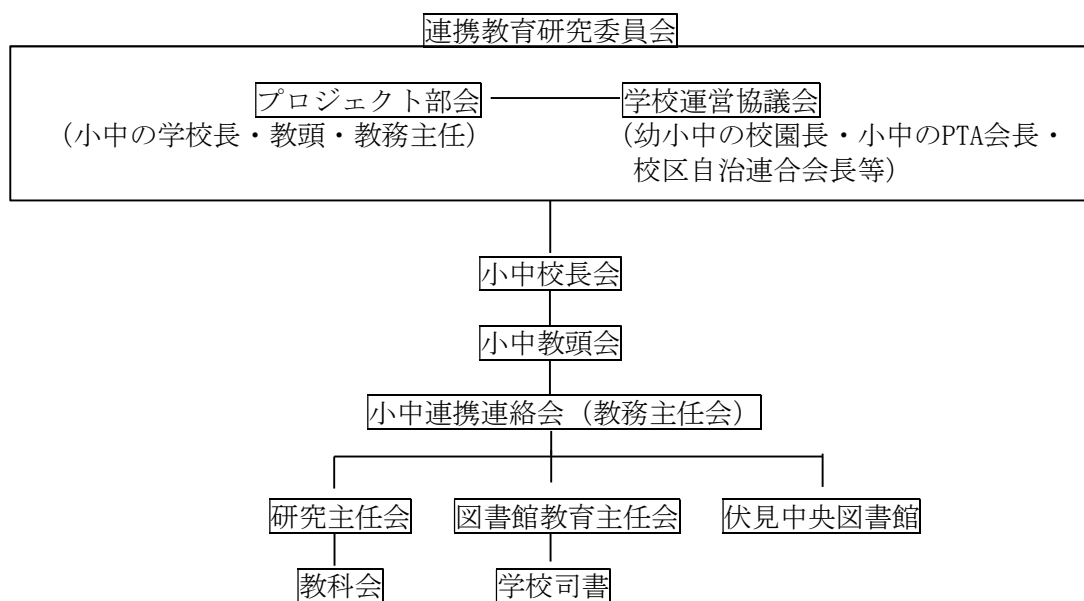
### (2) 研究主題設定の理由

伏見中学校では，平成27～29年度に京都市教育委員会の研究指定を受け，学校図書館を活用した授業改善の研究に取り組んだ。全学年・全教科で展開することで，学校全体として質の高い言語活動によって教科の資質・能力を向上させる指導法の開発を行った。その授業により，思考力，判断力，表現力等を育成することができた成果を受け，引き続き学校図書館を有効に活用することを中心とした主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について研究を進めている。

伏見中学校区の伏見住吉小学校・伏見板橋小学校・下鳥羽小学校においては，それぞれ教科指導に関する研究や，幼小連携の研究に取り組んでいる。一方で，小中連携については，合同での授業研究会は実施しているものの，9年間の系統的な取組には発展できていなかった。

今年度、小中一貫構想図や軸となる取組を見直し、その中で「学習意欲の向上の工夫」という目標を掲げている。その具現化に向けた取組を進めるに当たって、学校図書館の活用を中心とした9年間の学びを通して、主体的に学ぶ力等が育成できるものと考えた。また、学校図書館を活用した授業により、質の高い言語活動を生んでいくことは、各教科で目指す資質・能力の育成に結び付いていくと同時に、特に、思考力、判断力、表現力を育み、情報活用能力の育成につながっていくものと考えた。

### (3) 研究体制



### (4) 1年目の主な取組

平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合同授業研修会① (6月)</li> <li>・ 夏季合同研修会 (8月)</li> <li>・ 外国語活動公開授業 (11月)</li> <li>・ 合同授業研修会② (1月)</li> <li>・ 研究だよりの発行 (月1回程度)</li> <li>・ 学校図書館活用実績表の作成 (1月)</li> </ul>
--------	---

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

学校図書館を活用し、児童生徒の主体的な学びにつながる課題設定の工夫により、質の高い言語活動を生み出すことで各教科において育成する資質・能力の向上を図ることができる指導方法、また情報活用能力の育成を視野に入れた指導についての研究を進める。

学校図書館を活用した授業の学習指導計画を、9年間を通した学びの連続性の中で教科横断的な視点をもって可視化し、より効果的な学び・より深い学びを再構築していく。

### (2) 具体的な研究活動

合同研究授業・研究協議の機会を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学びのプロセスの構築や、児童生徒の主体的な学びにつながる課題設定の工夫により、質の高い言語活動

を生み出すことで各教科において育成する資質・能力の向上を図ることができる指導方法、また情報活用能力の育成の視点をもって研究を進める。また、伏見中学校の学校図書館を活用した授業の取組を公開授業や出前授業を通して3小学校と共有するとともに、3小学校のこれまでの対話や表現をテーマにした研究内容を融合させる中で、授業づくりの深化を図る。

6年生においては、それぞれの小学校のアイデアを交流する目的で、国語・算数・外国語活動の学習指導案を3小学校で1教科ずつ分担して作成し、それを共有して同じ学習指導案による授業を実践する。その6年生が中学校入学後に、共通で行った内容を発展させた授業を行う。そこでの生徒の変容を授業の様子や事後のアンケートより見取り、検証を進め、今後の授業改善へとつなげていく。

9年間連続した学校図書館を活用した授業を、情報活用能力の育成の視点をもって実績表にまとめ、可視化していく。

### 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 学校図書館の活用という中心課題を設定して、小中が目標の共有化を図って取り組んだことにより、校種間連携の意識、さらには9年間のつながりで学びを見取る小中一貫の意識がこれまで以上に育まれつつある。
- 合同授業研修会の開催（計3回）や、研究だよりの発行（月に1回程度）によって、小中の指導方法等について交流を進めることができた。同時に、小中のみならず、小小においても、互いの学びを意識する機会をこれまで以上に増やすことができた。
- 合同研修会等において、中学校で取り組んできた学校図書館を活用した授業作りの有効性について3小学校とで共有することができた。
- 各教科で求められる資質・能力を育成するための効果的な学校図書館を活用した授業を、主体的・対話的で深い学びの視点から模索し、実践することができた。その中で、小小連携を深めながら3小学校が共通した学習指導案による6年生の授業を実施できた。
- 実践の中で、図書を囲み、課題の解決に向かって活動する児童・生徒の姿を見取ることができた。
- 各教科での実践は積み上がりつつあるが、情報活用能力の育成という教科横断的な視点での可視化については不十分である。

### 4 今後の取組

- ・1年目に、小学6年生として共通の学習指導案による授業を受けた生徒に対して、中学校でその内容を発展させた授業を行い、変容を分析する。
- ・上記連続性のある小6の授業と中1の授業の学習指導案を作成、実践し、実践事例集としてまとめる。
- ・各教科の実践を情報活用能力の視点から整理し、発展性・系統性が見える表としてまとめる。